

デザイン科

授業科目名	デザイン原論 Principles of Design			
教員名	デザイン科教員			
開講時期	通年	火曜 3	単位	4
履修対象	学部生（デザイン科2年のみ）			
特記事項				

■授業テーマ

さまざまな創造行為の基礎基盤として設定される自然・風土・伝統・文化・生活経済の諸相および、素材・技術・情報などの側面から視覚、映像、機能、空間、環境、描画など異なるメディアをとおして考察することで、デザインのあるべき原点、及びこれからのデザインの道筋を示唆できればと考える。

■授業計画及び内容

オリエンテーション（橋本和幸）

伝えるⅠ（河北秀也）

- ・見るとはどういうことか
- ・情報社会について
- ・何々らしいデザインとは何か
- ・情報はどう流れるか

伝えるⅡ（箕浦昇一）

映像デザイン

・日本のCM誕生から現在までの50周年史を振り返りながら、日本と海外の映像デザイン表現の違いや社会との関わり等を講義する

用いるⅠ（長濱雅彦）

プロダクトデザイン

・産業工芸からインダストリアルデザインへと移り変わる産業デザイン史を中心に、日本および世界の生活デザイン運動の変遷を講義する

住まうⅠ（清水泰博）

室内から都市空間まで、それぞれの場所での関係のデザインについて講義する。テーマとしては「内と外」「感性に働きかける空間」「集まり住むかたち」など

広げる（鈴木太郎）

・立体造形を主としたテクノロジーアートや、動きを伴う作品表現の近年の事例を紹介しながら、今の社会に於いてデザインとしてのアート表現の可能性を探る

用いるⅡ（尾登誠一）

- ・デザインのメタマトリクス
- ・文化とデザイン
- ・生活とデザイン
- ・デザインのアナログ的展開

伝えるⅢ（松下計）

グラフィックデザイン、アートディレクションという領域はメディア環境の変化に伴い拡張し続けているが、これらをあらゆる観点から思考し、いかなる未来予想が可能か検証する。

描く（押元一敏）

日本の美意識と描画装飾との関連性をデザインや絵画の観点から思考し、更に描く行為とその意味を探る。

住まうⅡ（橋本和幸）

空間デザイン

デザイン、建築デザインの最低限知るべき基礎知識を中心に講義を行い、歴史的、文化的背景から家具、空間デザインの素となったモノやコトは何かを探る

まとめⅠ（橋本和幸）

各自の課題レポートの発表を行う

■受講に当たっての留意事項

デザイン科2年生のみ受講可能。

■成績評価方法

出席状況、課題レポートの評価による。

■教科書／参考書

随時指示する。

■備考（オフィスアワー）

デザイン科合同研究室

授業科目名	ビジュアルデザインⅠ Visual DesignⅠ			
教員名	宮後 優子、山口 信博			
開講時期	前期	月曜 5	単位	2
履修対象	学部生（デザイン科）			
特記事項				

■授業テーマ

デザイナーとして知っておきたいグラフィックデザインの活きた知識を学びます。

近年の代表的なデザイナー、印刷や文字の知識、ブックデザインの基本を習得します。

■授業計画及び内容

将来デザイナーとして仕事をしていく上で知っておきたい、今のデザイン業界のことや文字や印刷の知識など、デザインワークに役立つ内容を説明します。

1. オリエンテーション：現在のデザイン業界について。広がるグラフィックデザインの領域の話。
2. 日本のグラフィックデザイン：デザイナーごとに代表作を見ることで、デザイン史を体得します。
3. 海外のグラフィックデザイン：デザイナーごとに代表作を見ることで、デザイン史を体得します。
4. タイポグラフィ：書体の選び方、文字の組み方など実践的な知識を解説。
5. 紙と印刷：紙の種類と適性、印刷加工・製本の基本を学びます。
6. ブックデザイン1：造本が面白い本を紹介。
7. ブックデザイン2：自主制作の場合の印刷製本について。手製本実習。
8. ブックデザイン3：本の企画の立て方、編集の仕方、造本の基本。
9. 情報の見せ方：レイアウトとページネーション。印刷物、ウェブ、電子媒体での見せ方について。
10. プレゼンテーション
(授業の進み具合により、1テーマを2回に分けることもあります)
11. グラフィックデザイナー 山口信博による特別講義

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席率と課題（制作物）

■教科書／参考書

「欧文書体 その背景と使い方」ほか。
授業時に指示します。

■備考（オフィスアワー）

デザイン科合同教員室 050-5525-2206

授業科目名	ビジュアルデザインⅡ Visual Design II			
教員名	櫻井 稔、色部 義昭、渋谷 克彦、 城田 圭介、松下 計			
開講時期	後期	月曜 3・4	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

デザイナーとして知っておきたいグラフィックデザインの活きた知識を学びます。
近年の代表的なデザイナー、印刷や文字の知識、ブックデザインの基本を習得します。

■授業計画及び内容

グラフィックデザインの社会的意義はもはや一つの観点からでは読み解きがむずかしくなっている。
しかしその役割は常に時代の最前線において情報にいか「相応しい価値付け」がなされるかに関しては不可変であり、テクノロジーのハイ・ローを自由に横断しつつ専技と思考性を兼備する必要がる事変わらない。
本講義では論理的フェーズ、実践的フェーズ、双方の観点からグラフィック デザインのみなもとを引き出しそれを養分として総合力を向上させる事を目指している。
理論講義とともに各現場から第一級のデザイナー、ディレクターのリレーション講義を行う
・グラフィックデザインの歴史的観点からの解説
・印刷物から空間デザインまで、現場ディレクターから実践例をともなう解説
・ブックデザイン、マガジンディレクションの見地からの解説
・資生堂のブランディング、アドヴァタイジングの見地からの解説
・ファインアートの見地からの解説

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席点等、各講師の総合評価による

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

3限のみや3・4限連続等の変則的な授業があるため、掲示等に注意すること。
デザイン科合同教員室 050-5525-2206

授業科目名	スペースプランニングⅠ Space Planning I			
教員名	袖木 恵介、橋本 夕紀夫、木下 史青、 皆川 明、青木 ゆかり、八木澤 優記			
開講時期	前期	木曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

スペースプランニングは、空間に必要なヒトとモノの関係性を整理し、空間というメディアをとおしてヒトにとって何が大事なのかを提示する事と言える。アート／建築／インテリア／ファッション／映像などの媒体をとおして最前線で活躍する講師陣により、空間プランニングの概要を学び、それぞれのデザイナーが何を大事にプランニングし、何を提示しているのか、そこからデザインの枠を超えた空間表現の可能性をつかんでほしい。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス
橋本和幸
2. サイトスペシフィックアート (仮)
袖木恵介
3. サイトスペシフィックアート (仮)
袖木恵介
4. インテリアデザイン 1
橋本夕紀夫
5. インテリアデザイン 2
橋本夕紀夫
6. インテリアデザイン 3
橋本夕紀夫
7. インテリアデザイン 4
橋本夕紀夫
8. ディスプレイデザイン (展示デザインについて)
木下史青
9. ディスプレイデザイン (照明計画／現地見学)
木下史青
10. ヒト・フク・空間 1 (仮)
皆川明
11. ヒト・フク・空間 2 (仮)
皆川明
12. 未定
八木澤優記
13. 未定
八木澤優記
14. 映像とスペースデザイン (テレビを通して見るスペースデザイン)
青木ゆかり
15. 映像とスペースデザイン (現地見学／スタジオ見学等 (未定))
青木ゆかり

■受講に当たっての留意事項

最前線でデザインを行っているデザイナーの仕事に肌で感じてほしい。デザインの領域が多くある事にアンテナを向けてほしい。学部デザイン科3年以上受講可能。

■成績評価方法

出席点、課題レポートの評価による。

■教科書／参考書

パソコン、プリント等により講義。資料は随時案内する。

■備考（オフィスアワー）

5限のみと4、5限連続の場合があるので、掲示等に注意する事。
デザイン科 空間・設計研究室またはデザイン科合同教員室を通じて随時取り次ぐ (教員室を窓口として対応)

授業科目名	スペースプランニングⅡ Space Planning II			
教員名	富田 泰行、団塚 栄喜、石多 未知行、 田瀬 理夫、中野 恒明			
開講時期	後期	木曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

空間・環境デザインの領域で、特に外部空間のデザインを中心とした講義を行います。都市、土木、建築、ランドスケープ、ライティング、ストリートファニチャー、アートなど、都市環境におけるデザインでは多面的な視点から考えることが必要となります。本講義は特にアーバンデザイン、ランドスケープ、照明、映像演出、エコロジーなどの視点から空間のデザインのあり方を講義していきます。

■授業計画及び内容

0. オリエンテーション 清水泰博
 1. 光について_街、住まい、心理 富田泰行
 2. 生活の光/都市の光 富田泰行
 3. 生活のプロダクトや境界の景色における光 富田泰行
 4. 都市における自然とは何か/ EARTHSCAPE 作品を通じて 団塚栄喜
 5. 都内あるいは近郊の(団塚先生 Project) 見学 団塚栄喜
 6. 映像が広げる新たな空間演出表現、プロジェクションマッピング/制作ガイダンス 石多未知行
 7. プロジェクションマッピングの制作実践 石多未知行
 8. 都市環境の現状を認識する。東京ヒートマップなどからわかる環境 田瀬理夫
 9. 都市エコロジーの再生。日常性、社会性、地域性の回復デザイン 田瀬理夫
 10. 都市環境デザインの世界: 地域活性化に資する公共空間のデザイン(国内・世界) 中野恒明
 11. 都市空間のデザイン: 身近な場所の公共空間・街並み(都内事例) 中野恒明
 12. 街並デザイン: デザインコーディネートの現場(柴又、中野先生 Project) 見学 中野恒明
 13. 五感とスケール感 富田泰行
 14. 生活の中の日常と非日常 富田泰行
 15. 課題講評: 課題テーマは別途決定 富田泰行、清水泰博

■受講に当たっての留意事項

教室での授業を中心に、都内の施設見学会も行います

■成績評価方法

出席点、課題レポートの評価によります

■教科書/参考書

プロジェクターとプリントによる講義。資料は随時案内します

■備考(オフィスアワー)

5限のみと4、5限連続の場合があるので、掲示等に注意する事。デザイン科 環境・設計研究室またはデザイン科合同教員室を通じて随時取り次ぎます

授業科目名	プロダクトデザインⅠ Product Design I			
教員名	山崎 宣由、廣田 尚子、 今中 隆介、山岸 悦夫			
開講時期	前期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

プロダクトデザインは、社会的・経済的・文化的・環境的・生活的価値の創造を担い、単に造形力だけでなく、広い視野に立った課題の発見・仮説の構築・問題解決力が求められている。また IT 技術の発展にともないデザインの方法論・プロセス・表現・情報伝達技術にも大きな変化が起きている。こうしたプロダクトデザインが直面する様々な問題について理解を深め、今後のプロダクトデザインの果たすべき役割を考察する。

■授業計画及び内容

- ・プロダクトデザイン の概念
- ・企業及び地域産業におけるデザインの現状
- ・企画からプロモーションまで
- ・現場における 3 次元 CAD&CG
- ・アドバンスデザイン、デザインの未来
- ・経験価値創造のデザイン
- ・体験的ユニバーサルデザイン
- ・デザイン現場見学
- ・生活とデザイン — 身につけるプロダクト
- ・生活とデザイン — 遊
- ・生活とデザイン — 器

■受講に当たっての留意事項

講義の流れを重視する為、欠席しないこと。学部デザイン科 3 年以上受講可能

■成績評価方法

出席日数、受講態度、プレゼンテーション、レポート

■教科書/参考書

■備考(オフィスアワー)

5限のみや4・5限連続の授業があるため、掲示等に注意すること。デザイン科合同教員室
TEL: 050-5525-2206

授業科目名	プロダクトデザインⅡ Product Design II			
教員名	青木 史朗、尾登 誠一、長濱 雅彦、 若杉 浩一、田川 欣也、鄭 秀和			
開講時期	後期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

プロダクトデザインⅡは、狭い意味での「かたちづくりのデザイン」を対象としたものではない。テクノロジーを、さらには人間の生き方そのものをより豊かにするために、「デザインという知を活用しよう」という視点からとらえようと考えている。ものごとを食べて租借してみる。昆虫の視野、鳥の視点から見つめなおす、耳を澄ましてみる、問いかけてみる。比喩的に言えば、デザインはそうした語りかけを通じて、「今まで気づかなかった解決策を導く思考」である。21世紀社会を先導するプロダクトデザインの可能性について考察していく。

■授業計画及び内容

- ・ 芸術、技術、デザイン
- ・ 20世紀デザインの誕生
- ・ 日本デザインの歩み
- ・ デザインの今日的課題
- ・ デザインの知再考
- ・ ユビキタスデザイン
- ・ 日本全国スギダラケ倶楽部の活動紹介
- ・ デザインとエンジニアリングについて
- ・ 最新機器のデザインについて
- ・ プロダクトデザインのまとめ

■受講に当たっての留意事項

講義の流れを重視する為、欠席しないこと。学部デザイン科3年以上受講可能

■成績評価方法

出席日数、受講態度、レポート

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

5限のみや4・5限連続など、変則的な講義があるため、掲示等に注意すること。

デザイン科合同教員室

TEL：050-5525-2206

授業科目名	映像論Ⅰ Image Design I			
教員名	中谷 日出、村田 朋泰、中村 勇吾、 高崎 勝二、口石 潤一、箭内 道彦			
開講時期	前期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

複数の講師により映像(論)を様々な角度、メディアから考察し、学ぶ

■授業計画及び内容

- 1、中谷日出
作品等を通して現代デジタル映像を考察、技法論を学ぶ
- 2、村田朋泰
アニメーションを中心とした映像の考察をし、モデルアニメーションの演習をもとに技法等学ぶ
- 3、中村勇吾
ウェブ作品を通して現代ウェブ概説を学び、考察する
- 4、高崎勝二
CM映像をもとに撮影方法を学ぶ
- 5、口石潤一
アミューズメント映像の商品性にのっとったプロデュース論、企画、プロダクション技法を学ぶ
- 6、箭内道彦
CM企画・演出等を通してクリエイター論を展開。クリエイター、クリエイティブとはを考察する。

■受講に当たっての留意事項

映像論Ⅰの講義の流れが映像論Ⅱにも繋がるため、通年で受講することが望ましい

■成績評価方法

出席点等、各講師の総合評価による

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

5限のみや4・5限連続など、変則的な講義があるため、掲示等に注意すること。

授業科目名	映像論Ⅱ Image Design II			
教員名	高木 章			
開講時期	後期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生（デザイン科）			
特記事項				

■授業テーマ

映像という新しい言語の持つ可能性と深さを知るために、CM制作をする。同時に映像制作に欠かすことのできないプロダクションワーク（チーム作業）の重要性を認知する。シナリオの映像制作を完成させるのはもちろんだが、広告映像の商品性という環境の中で前提条件をクリアしながら立案する企画やプレゼンテーションを学ぶ。また、撮影技法、編集技術、サウンドMA等のポストプロダクション技術を学ぶ。

■授業計画及び内容

1. CM企画(実際のCMを企画制作)～公共広告機構のTVCM制作～
2. オーディオとビジュアルのマッチング
3. その他

■受講に当たっての留意事項

学部デザイン科3年以上受講可能。

■成績評価方法

CM完成が最低条件

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

5限のみと4、5限連続の場合があるので、掲示等に注意する事。

授業科目名	デザイン特論 Advanced Design			
教員名	デザイン科教員			
開講時期	集中	単位	4	
履修対象	大学院（修士1年、デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

各研究室の専門領域を軸とした、各研究室ごとのゼミナール方式の授業

■授業計画及び内容

視覚・演出研究室（河北） コミュニケーションデザインの発展論。
企画・理論研究室（藤崎） メディアプロトタイプング。様々なメディアの試作をつくる。
視覚・伝達研究室（松下） 視覚伝達デザインにおける独創性、社会性、技術の3つの柱を立て、事例を交えながら講義。
空間・演出研究室（鈴木）
空間演出の可能性に関する研究、参加学生による研究発表。
空間・設計研究室（橋本） 内部空間のデザインを、多面的な視点から講義。
機能・演出研究室（尾登） アフォーダンスの視点で観る機能デザイン。
機能・設計研究室（長濱） 商品企画とデザイン、サステイナブルデザインなどの研究。
環境・設計研究室（清水） 環境デザインに関わる内容をテーマごとに講義、また参加学生による発表も行う。
映像・画像研究室（箕浦） コミュニケーションデザインを前提とした画像、映像（アニメーションを含めた）論を歴史を含めて講義。
描画・装飾研究室（押元）
平面における主題・構成（構図）・色彩・装飾などの点から視覚的效果について研究。

■受講に当たっての留意事項

デザイン専攻のみ単位取得可能。原則として修士1年次（約30人）を対象とする。

■成績評価方法

各研究室ごとの総合評価とする。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	デザインプロジェクト Design Project			
教員名	デザイン科教員			
開講時期	通年	水曜 1・2	単位	4
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

社会連携によるデザイン開発

■授業計画及び内容

デザイン専門領域を横断したチーム編成によるデザイン開発プロジェクト

原則として修士1年次（約30人）を対象とする。

プロジェクトのテーマを、5～6人を1チームとしたメンバーで、デザイン開発を行う。デザインジャンルを横断したチーム編成により、各チームのテーマによるデザイン開発を複合的に行うことで、よりトータルなデザイン成果を高め、かつ深化することを目的とする。また、プロジェクトのテーマは、社会（自治体や企業などの組織）と連携を図り、より具体性のあるテーマを設定しつつ、斬新なデザイン開発を行う。さらにそのデザインが実現することも視野に入れる。地域振興・活性化、特色のある商品開発などのデザインプロジェクトを立ち上げ、修士課程に相応しい総合的なデザイン開発に取り組む授業とする。

指導体制は、常勤教員全員（教授・准教授・助教）と、非常勤講師による集中講義及び実技作品製作により一年間を通して行う。

■受講に当たっての留意事項

デザイン専攻のみ単位取得可能。原則として修士1年次（約30人）を対象とする。

■成績評価方法

企画・コンセプトから立案を経て開発されたデザイン成果を総合的に評価する。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

オフィスアワー：デザイン科合同研究室 tel050-5525-2206

授業科目名	アートディレクション I Art Direction I			
教員名	中村 政久			
開講時期	前期	木曜 5	単位	2
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

アートディレクションは変わる。時代は変化し4マスメディアの概念も変わり、新しいコミュニケーションの形とメディアが求められています。時代の最前線の情報と価値観を理解しつつ、基本であるコミュニケーションデザイン力と心理に関わるデザインの考え方を理論的、心理的、実践的に、能力の向上を目指します。

■授業計画及び内容

時代と人々の変化にあったテーマを授業初日にオリエンテーションします。その後、実社会の広告制作過程に即したカリキュラムでコミュニケーションを企画していきます。さらに発想力を磨き、アイデアのビジュアル化をはかっていきます。その過程では徹底したディスカッションを通し、アイデアを実現する授業を行います。最終日に自分の考えによるプレゼンテーションを行い、周りの反応を体得してもらう流れで授業を行います。

▼オリエンテーション及び講師のガイダンス

▼フリーディスカッション

▼時代の価値観、世の中の価値観の抽出

▼アイデア企画

▼サムネールの検討

▼企画書の制作

▼ビジュアルの検討

▼コミュニケーション手法の検討

▼ストーリーテリングの習得

▼プレゼンテーション実習

この間、同時期に講師によって制作された実例をベースにケーススタディとして講義も行い、実際の制作物に直接触れてみる。また、可能であれば制作に現場見学を行う。

■受講に当たっての留意事項

デザインが起点になるコミュニケーションの可能性を考える授業です。学生の積極的な参加と発言を望みます。己の殻に籠りがちな芸大生にとって、気付きのきっかけになる授業にしたい。

■成績評価方法

制作課題への提案内容を主体とします

■教科書／参考書

講師自身のここ数年の企業ブランディング制作物及び広告制作物 (PP、DVD)

■備考（オフィスアワー）

デザイン科合同研究室 tel050-5525-2206

授業科目名	アートディレクションⅡ Art Direction II			
教員名	田中 良治、廣村 正彰、服部 一成、 加藤 芳夫、祖父江 慎、室賀 清徳、松下 計			
開講時期	後期	木曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生 (デザイン専攻)			
特記事項				

■授業テーマ

多岐におよぶ現代のアートディレクションを、6名の講師が各専門領域の視点から語る。

前半は、Web、描画、エディトリアル、パッケージ、ブランディング、サイン計画などの領域で活躍するデザイナーによる実践的アートディレクション論。

後半は、デザイン誌『アイデア』編集長の室賀氏によるクリティカルなアートディレクション論で構成される

■授業計画及び内容

講師

田中良治 (ウェブデザイナー)

廣村正彰 (デザイナー、アートディレクター)

服部一成 (デザイナー、アートディレクター)

加藤芳夫 (クリエイティブディレクター/サントリー)

祖父江慎 (エディトリアルデザイナー)

松下計

【後半6回】

室賀清徳 (編集者)

■受講に当たっての留意事項

アートディレクションは人間性、品格の育成も重要に考えている為、必ず出席すること。

デザイン専攻のみ単位取得可能。

■成績評価方法

出席日数とレポート

■教科書／参考書

なし

■備考 (オフィスアワー)

5限のみや4、5限連続の講義の場合がありますので、掲示等に注意する事。

授業科目名	パブリックアート Public art			
教員名	池村 明生			
開講時期	前期	金曜 3	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

公共空間をステージとする芸術的表現をパブリックアートと捉えると、古今東西様々な事例を探すことができます。それは昨今のアーティストたちの芸術作品のみならず、無名な制作者による作品もあれば、市民との共同により完成した作品も多く、様々なパブリックアートからアートやデザインの社会的意味を知ることができます。本授業では、これら社会的意味をもつパブリックアートの変遷をたどりながら、それぞれの時代や場面に求められたアートやデザインのかたち、またアーティストや制作者の役割を把握した上で、現代社会におけるパブリックアートの可能性を考察することを目標とします。

■授業計画及び内容

1. パブリックアート概論

2. パブリックアートの変遷Ⅰ (崇拝と銅像)

3. パブリックアートの変遷Ⅱ (主義と銅像)

4. パブリックアートの変遷Ⅲ (平和と彫刻)

5. パブリックアートの変遷Ⅳ (まちづくりと彫刻)

6. パブリックアートの変遷Ⅴ (再開発とアート)

7. パブリックアートの変遷Ⅵ (市民参加とアート)

8. パブリックアートの変遷Ⅶ (エンターテインメントとアート)

9. パブリックアートの発展形Ⅰ (アートプロジェクト)

10. パブリックアートの発展形Ⅱ (プラスアート)

11. パブリックアートの成立、発展の背景

12. パブリックアートと芸術家のかかわり

13. パブリックアートの論争

14. 現代社会とパブリックアート

15. パブリックアート考察

■受講に当たっての留意事項

授業はパワーポイント資料による解説と履修生とのディスカッションにより進めます。

また研究科の授業として芸術作品の表現だけに興味を示すのではなく、その表現が成立した背景や仕組みを学習することを望みます。

■成績評価方法

授業出席とレポート課題、および授業時の取組みや姿勢によって評価します。

■教科書／参考書

「空間づくりにアートを活かす」(池村明生、学芸出版社、2006年)

■備考 (オフィスアワー)

デザイン科合同教員室 050-5525-2206

授業科目名	環境デザイン Environmental Design			
教員名	宮城俊作、西村浩、大田友祐、面出薫			
開講時期	後期	火曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

環境デザインの諸分野の講義を行います。都市、土木、建築、ランドスケープ、インテリア、家具、パブリックアートなど環境デザインの領域は極めて広いものとなります。本講義では特にランドスケープ、アーバンデザイン、インテリア、照明などの視点から空間、環境のデザインのあり方を、歴史、実例や実際などを含めて講義していきます。

■授業計画及び内容

0. オリエンテーション 清水泰博
 1. ランドスケープデザインの職能の実践とその社会的な役割 宮城俊作
 2. 近代アメリカ・現代欧州のランドスケープデザイン 宮城俊作
 3. 都市との関わりから導かれるモノづくりの展開 西村 浩
 4. 日本における土木デザインの進化と現在 西村 浩
 5. モノづくりにおける市民協働の意義と可能性 西村 浩
 6. オフィスの概論／歴史と変遷 大田友祐
 7. オフィスの最新事情／欧米と日本 大田友祐
 8. オフィスのデザイン／手法と実践 大田友祐
 9. 光・あかり・照明の科学／現代照明デザイン史 面出 薫
 10. 建築照明の作法／照明計画論と実践的課題 面出 薫
 11. 光の都市計画／都市環境照明の実践的課題 面出 薫
 12. 照明計画プロジェクト視察調査（東京国際フォーラム他）面出 薫
 13. 日本の伝統的庭園における自然観の表象とその形態について 宮城俊作
 14. ランドスケープデザインにおける空間スケールの扱いについて 宮城俊作
 15. ランドスケープデザインに用いられる素材の特性とその扱いについて 宮城俊作、清水泰博

■受講に当たっての留意事項

教室での授業が中心 自然科学に対する関心を持っていることが望まれます

■成績評価方法

出席点、課題の提出・プレゼンテーションの評価によります

■教科書／参考書

プロジェクターとプリントによる講義。資料は随時案内します／「ランドスケープの視座」宮城俊作、学芸出版社、2001年

■備考（オフィスアワー）

4限のみと、4、5限連続の場合がありますので、掲示等に注意する事。デザイン科 環境・設計研究室またはデザイン科合同教員室を通じて随時取り次ぎます

授業科目名	プロダクトプランニング I Product Planning I			
教員名	山田 弘和、森山 明子			
開講時期	前期	月曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

■キーワード

- ・プロダクトデザインにおける製品計画手法。
- ・ユーザーのニーズを発見し、コンセプトから造形へ橋渡しするデザインプロセスの学習。
- ・産業デザイン史

etc

■授業内容

現在の社会は、20世紀の大量生産・大量消費の仕組みを抱えながら、一方で地球環境との共存を前提とした新たなしくみを模索する移行期を迎えている。デザインの分野においても今、何を作るべきかを再考する必要がある。プロダクトプランニング I は、従来の製品概念をリコンセプトし、変化する社会構造に最適化させる実践的デザインメソッドである。従来の生産性と消費型経済を中心とするプロダクトアウトの発想による製品開発アプローチを見直して、人のくらしかたを主とする新たな視点による製品計画手法について、デザインプロセスとして学習する。

■授業計画及び内容

■授業計画

- ・わが国デザイン史に学ぶ：デザイン飛躍の駆動力
- ・繊維産業とファッション：1970年代の変貌
- ・コミュニケーションの問題：企業も国も超えて
- ・道具と住まいのディテール：触覚と視覚のはざま
- ・アートとデザインに通底するもの：石元泰博、新井淳一（森山）
- ・開発テーマの発見、開発プログラム
- ・データ・資料収集、ニーズの分析
- ・アイデア展開－コンセプト立案・仮説づくり、デザインコンセプト
- ・造形アイデア展開、モデリングなどの造形検討手法
- ・インターフェース、形態サイン性の検討
- ・ユーザビリティの検討
- ・製図によるスケール、プロポーション、バランスの検討
- ・基本デザインから実施計画へ
- ・プロダクトプランニングにおけるデザインプロセス
- ・演習課題のプレゼンテーションと講評、など（山田）

■到達目標

デザインプロセスを把握し、コンセプトから造形までの行程を踏むことで整合していく仕組みを学ぶこと。

■授業以外の学習方法

普段使っているプロダクトを色々なユーザーの立場から見直してみよう。単なるアイデアではなく基本をおさえるコンセプトと造形の整合性という観点から、色々なプロダクトを再考してみること。

■受講に当たっての留意事項

プロセスを軸に授業を進めるので、毎回欠かさず受講すること。

■成績評価方法

毎回のスキルチェック及び、プランニング演習作品の提出による総合評価。

■教科書／参考書

毎回、テキスト配布予定。

■備考（オフィスアワー）

デザイン科合同教員室

TEL：050-5525-2206

授業科目名	プロダクトプランニングⅡ Product Planning II			
教員名	白濱 力、安井 俊一、有吉 司、石田 和人			
開講時期	後期	月曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

プロダクトプランニングⅡでは、共有の道具や装置のデザインプランニングを中心に論を進め、公共分野でインダストリアルデザインが果たす役割と、デザイン方法論について考察する。特に移動におけるアクセシブルデザインを視座に据え、造形の背景と、美しい造形を追及する。

■授業計画及び内容

- ・パブリックプロダクトの概要と考え方
- ・歩行、道、歩行環境、歩行支援装備
- ・タウンモビリティ
- ・移動システムの中の自転車。自転車のデザイン
- ・移動の多様性（1）バス、中小量輸送機材のデザイン。クリチバ市の事例研究
- ・移動の多様性（2）ライトレイル・トランジットの歴史的、社会的背景とデザイン
- ・移動の多様性（3）ヘビーレイル・トランジットのデザイン
- ・鉄道ターミナル概観。ロンドン・ウォータルー、スイス・スタッデルホーフェンなどの事例から
- ・空港ターミナルのデザイン。スキポール空港の事例から
- ・アクセシブル支援機器、機材の概要
- ・パブリックファニチュア概観
- ・パブリックサイン概要
- ・町づくりとサイン
- ・交通ターミナルのサイン
- ・まとめと討論

■受講に当たっての留意事項

デザインを通して社会への関心を持って欲しい。デザイン専攻のみ単位取得可能。

■成績評価方法

講義への参加、質疑応答とレポートによる。

■教科書／参考書

資料配布。参考書：「クルマ社会のリ・デザイン」（鹿島出版会）

■備考（オフィスアワー）

5限のみや4・5限連続など、変則的な講義があるため、掲示等に注意すること。

デザイン科合同教員室

TEL：050-5525-2206